

巨匠ギエルミ登場

# バッハ、名曲決定版

J.S.バッハ

Johann Sebastian Bach

フーガ ト短調 BWV578

Fuga in g minor BWV578

トッカータとフーガ ニ短調 BWV565

Toccat & Fuga in d minor BWV 565

前奏曲とフーガ ハ長調 BWV531

Praeludium & Fuga in C major BWV531

前奏曲とフーガ ニ短調 BWV539

Praeludium & Fuga in d minor BWV539

コラール「おお人よ、汝の罪の大なるを嘆け」 BWV622

Choral "O Mensch bewein dein Sünde gross" BWV622

協奏曲 ト長調 BWV592

Concerto in C major BWV592

パルティータ「恵み深きイエスよ、よくぞ来ませり」 BWV768

Partite diverse sopra "Sei gegrüßet, Jesu gütig" BWV768

ヨハン・パッヘルベル

Johann Pachelbel

チャコーナ ヘ短調

Ciaccona in f minor

コラール「高き天より、われは来たり」

Choral "Vom Himmel hoch da komm' ich her"

[オルガン] ロレンツォ・ギエルミ

2018 **5.12** (土) 19:00開演 (18:20開場) ザ・シンフォニーホール

全席指定 3,240円(税込) Sinfonia会員先行 2017年11月23日(木・祝) 一般発売 2017年11月26日(日) 主催: The Symphony Hall

© Sergio Caminata

〈ご予約・お問い合わせ〉

ザ・シンフォニー チケットセンター  
06-6453-2333 (10:00~18:00火曜定休)  
<http://www.symphonyhall.jp>

〈プレイガイド〉

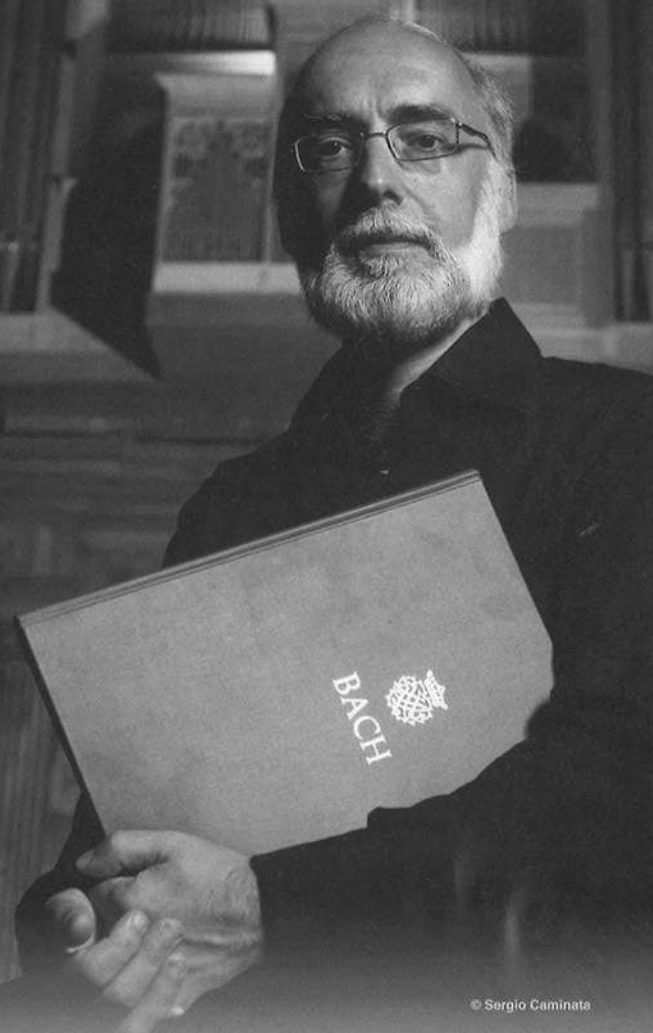
e+ (イープラス) <http://eplus.jp/symphonyhall> (パソコン・携帯)  
チケットぴあ 0570-02-9999 [Pコード: 348-884]  
ローソンチケット 0570-084-005 [Lコード: 54614] 0570-000-407 (オペレーター対応 10:00~20:00)

\*未就学児のご入場は御遠慮  
いただいております。  
\*やむを得ない事情により、曲目、  
曲順が変更になる場合がございます。  
予めご了承ください。

# 巨匠ギエルミで蘇る J.S.バッハのオルガン

2014年に「クリスマスオルガンコンサート」が誕生して以来、毎回大好評を博しているザ・シンフォニーホールのオルガンコンサート。ホルンの世界的名手、ラデク・バボラークとの共演、「3大アヴェ・マリア」やJ.S.バッハの名曲選、プロジェクション・マッピングを駆使した親しみやすい映画音楽プログラムなどを通じてパイプオルガンの魅力をお伝えしてきました。そして2018年、ついにオルガンの巨匠ロレンツォ・ギエルミが登場します。

プログラムには、オルガン曲の代名詞といえるJ.S.バッハの「フーガト短調 BWV578」「トッカータとフーガ ニ短調 BWV565」などの名曲ばかり。まさにバッハ名曲決定版!バッハ作品解釈の研究者としても名を馳せるなど、バッハを知り抜いた巨匠ギエルミによる味わい深い演奏は、心を揺さぶり、感動を与えてくれることでしょう。同じオルガン、同じ曲であっても、オルガニストによって異なる、パイプオルガンの音色。ぜひギエルミの世界をお楽しみください。



© Sergio Caminata

## ロレンツォ・ギエルミ [オルガン]

## LORENZO GHIELMI

イタリアを代表するオルガニスト、チェンバリスト、指揮者で、ルネサンスとバロック音楽の演奏家、研究者。ヨーロッパ、日本、アメリカなどで幅広くコンサートや、レコーディングを行なう。ドイツ・ハルモニア・ムンディ、ウインター&ウインター、アルス・ムジカなどからCDを数多くリリース。16~17世紀におけるオルガン芸術、バッハの作品解釈の研究にも熱心である。現在、ミラノの聖シプリチアーノ教会のオルガニスト、ミラノ国際音楽アカデミーの古楽研究所でオルガン、チェンバロそして室内楽の教鞭を執っている。また、世界中の著名なオルガン・コンクールの審査員として、またマスタークラスの講師として招へいされている。2005年には、自身のグループ「ラ・ディヴィナ・アルモニア」を結成し、ヘンデルのオルガン協奏曲第1集(ディアバゾン賞受賞)などを録音している。東京カテドラル聖マリア大聖堂のオルガン建設のための芸術コンサルタントを務めた様子は、2004年NHKハイビジョン特集「パイプオルガン誕生」で紹介された。

### 情熱に包まれ誕生したザ・シンフォニーホールのパイプオルガン



ザ・シンフォニーホールのロゴマークにもなっているパイプオルガンはスイスの名門オルガン製造会社「クーン社」によって生み出されました。「本格的なクラシック音楽専用ホールには欠かすことができない」という強い想いのもと導入されました。透明感のある明瞭な音の特徴で、外から見える部分と中に組み込まれているパイプを合わせると、合計3,732本ものパイプから成り、低いパイプを鳴らす足鍵盤、そして3段ある手鍵盤の下には音色の組み合わせを512通りも記憶させるコンビネーションボタンがあり、オルガニストの感性、音楽解釈によって音色が組み合わせられていきます。